

『課題解決型インターンシップ』

篠栗町役場 総務課 実習報告

課題解決型インターンシップとは、

- ・『実践する力』（学んだ知識を応用し、実際の仕事の中で活用していく力）の育成を目的とした、2・3年生対象の選択科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の1つの型。
- ・企業が実際に抱える課題に取り組み、課題を解決するためのプロセスを実践することで実社会でも応用可能な汎用的能力を養うことを目的とする。2名程度でチームを組み活動することにより、自分の専門性を活かしながら他者とチームで働く力を養うことができる。

■課題

近年、篠栗町の自治会加入率は減少している。山に囲まれ災害が起きやすい篠栗町だからこそ、いざというときに自治会の存在が欠かせない。公務員の仕事や解決に向けたノウハウを学び、加入率向上に向けた有効な解決方法を検討したい。

■提案内容

- ・SNSなどの時代に合った情報発信の方法を使用する。
- ・篠栗町民の行き来が集中する篠栗駅にポスターを貼る。
- ・加入者の負担を減らすための工夫として、自治会の構成を変更する。
- ・自治会が購っている照明灯などに自治会名を掲示する。



篠栗町役場総務課のご担当者様と（写真中央）



駅での聞き取り調査（門松駅）

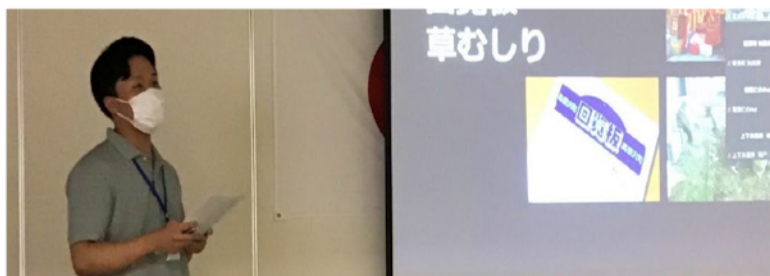
【実習を通じての感想や学んだこと】

社会環境学科 3年 高橋 雅和

課題解決型インターンシップでは、目上の方々とお話することが多い為、普段の学生生活では分からない自身の強みや欠点を知る貴重な機会となった。また、他学科の学生や大学関係者の方と面識を深めることができ、今後の学生生活や、就活にも役立つ良い経験だった。

知能機械工学科 3年 平石 智之

インタビューを通して、情報を取り入れ解決策を考案した。様々な案は出たが、実現可能な提案として言語化し、まとめていくことが難しかった。総務課の皆さんと議論を重ねて提案内容が完成した時は大きな達成感を得られた。



私にとって一番の学びは「姿勢」の大切さだった。プレゼン指導を通し、自分は生まれてからずっと目線や立つ姿勢、声などが不十分なコミュニケーションをとっていたことに気づいた。総務課の方から直々に質の高い指導をいただけたのは幸運だった。今後、その姿勢を少しずつ改善し、就活や日常の会話などにポジティブな効果をもたらしたい。（平石）

今回のインターンシップでは、篠栗町だけでなく、日本全体で自治会の存在意義が、疑問視されているという現状を知った。インターンシップに参加するまでは、自治会についての知識はあまりなかったが、約4週間の活動を通して、自治会のことや篠栗町のこと、その他にも、社会人としての振る舞いについてなど、多くの知識や経験を吸収できた実りあるインターンシップにできた。（高橋）